

第 296 回 静岡県病理医会 (SPS) 症例用紙

右副鼻腔腫瘍の 1 例 (50 代前半・男性)

施設：中東遠総合医療センター

供覧者：馬場 聡・望月駿佑・鈴木大介

【症 例】

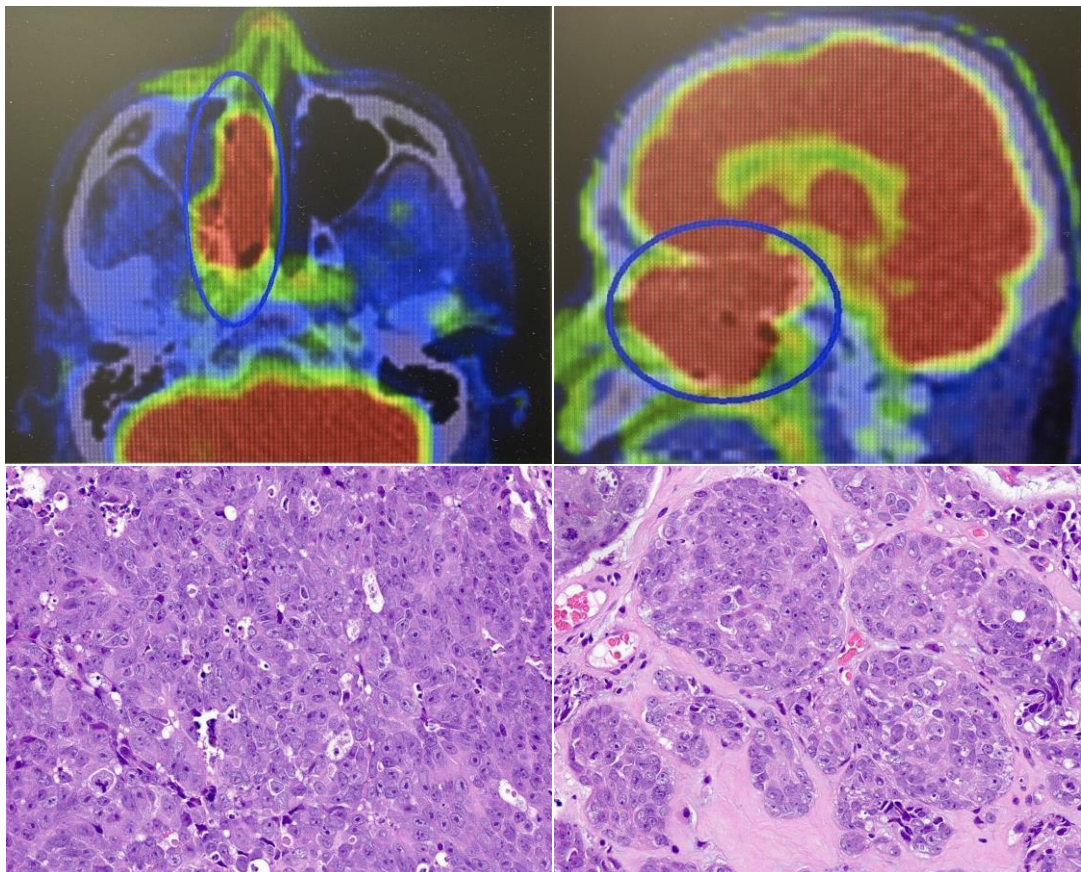
数ヶ月前から右鼻の通りが悪いことを自覚

数日前から複視を自覚，近医眼科にて目に異常なし→近医脳神経外科で右副鼻腔炎→
近医耳鼻科にて抗生剤治療するも、再診 CT で右副鼻腔炎急性増悪の疑い (→当院紹介)
右鼻腔内に表面平滑な腫瘍様病変を認める

単純 CT で右篩骨洞から右蝶形骨洞内側に骨壁の不明瞭化、眼窩先端から下眼窩裂にかけて軟部陰影の進展を認める (→右鼻腔腫瘍生検)

動眼神経不全麻痺あり，視力・視野に異常なし

腎結石，高血圧症，高コレステロール血症あり；飲酒(-)，喫煙(-)，アレルギー(-)



【問題点】組織診断